

---

## 78話 湯治の宿

吉川明人

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

78話 湯治の宿

### 【Nコード】

N6030K

### 【作者名】

吉川明人

### 【あらすじ】

シヨートシヨートです。老後の楽しみで全国の温泉をまわっているが、この宿はとても気に入った。今宵も月夜の晩に温泉にまつていると、誰だか分からない宿の人も温泉につきりにきているらしい。でも、それが誰かは分からない。

この温泉宿に居座りはじめてからかなりの時間が過ぎた。

ここの温泉は猿がつかりに来ることでも有名だ。

老後の趣味であちこちの温泉を訪ねている中で、ここがすっかり気に入ってしまい、ついつい長居しているというわけだ。

宿の女将さんは言うに及ばず、仲居さんの心づかいや花板の供してくれる料理にも、留まっているに値するに充分な理由だ。

だがそれだけではない。

ここへ来てひと月たったある晩のこと、満月のあまりの美しさに連られ、夜中ひとりで露天風呂を楽しんでいたときのこと……。

2

一人しかいないと思っていたが、ちょうど湯気で隠れたところに誰かの姿があった。

先客に気づかずに、一人の気分を満喫していたのである。

さらにこんな時間を利用しているのならば、宿の関係者が、親しい地元の人に違いない。

内心の恥ずかしさをごまかすこともあり、こちらから失礼を詫びるため話しかけた。

「申し訳ありません。おじやましてしまったようで」

「いや、構いません。あなたも月をご覧に？」

「ええ、街ではこんな美しい月は、なかなか見ることができませんので」

「……そろそろお越しになられてから1カ月たちますね」

「ちょうどこの月を見逃したころですね」

湯気で顔は見えないが、滞在している期間を知っているのなら宿の関係者に間違いない。

そう分かり、少し緊張が和らいだ。

「ここは、いい宿ですね。定年後いくつもの温泉を周りましたが、いちばんくつろげます」

「ありがとうございます。そう言っていたらと我々もやりがいがありますよ」

「いつもこんな時間に？」

「いえ、今夜はあなたと同じく満月に誘われて来ました」

「そうですか。それならあなたが誰なのかがうのはやめておきましょう。

昼間明るいとこで会って、せっかく月に導かれた者どうしの出会のタネを明かすのはもったいないように思います」

「それは面白い。あなもなかなかロマンチストのようですね」

「いえいえ、ただの年寄りのイタズラです」

こうして月に1度、満月の夜になるとお世話になっている宿の誰かとの会話を楽しむようになった。

普段は宿の人たちの声を覚えておき、この人だろうか、それともあの人だろうかと推理することも大きな楽しみとなっている。しかし、いつまでたっても一向に誰なのか分からなかった。

今日は仲秋の名月。

空には真円を描く満月が煌々と輝いている。

「あなたが来られてから、もう半年ですね」

「ええ。随分と長居しています」

「残念ながら、うちの宿は今月いっぱい今年営業は終わりなんですよ」

「女将さんからうかがいました。ですがこんな温泉宿なら、普通、寒くなるこれから観光シーズンではないのですか？」

「普通ならそうですが、うちはこれから……」

「いえ、方針なら仕方ありません。それより最後まであなたが誰なのか分からなかったことが気がかりです」

「来年、またいらしてくださいればお教えできるかもしれません」

「ですが、この歳です。来年の保証はありませんからねえ」

思わずつぶやいた弱音に答えられないのだろう、しばらく沈黙が続いた。

ザバツ！ といきなり水音がたち、その人がいた場所から真っ黒い何かが飛び出して、立ちならぶ木々の高い枝に飛び乗る。

湯気にはばまれてシルエットしか見ることができない「それ」が、

少し後ろを振り返りながら人の言葉を発した。

「ここを気に入っているとおっしゃっていただいて、とても嬉しかった。この姿をお見せするのは、宿を代表してお礼です」

そう言って、毛むくじゃらのものは木々の中に跳び去っていった。

この温泉は猿がつかりに来ることで有名だ。

むしろそれを見た人間が後からここを利用し始めたのかもしれない。

「また来年、いつしよに月を眺めましょう」

真っ黒な木々の中に声をかけると、遠くから笑い声のような鳴き声が聞こえてきた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6030k/>

---

78話 湯治の宿

2010年10月22日00時51分発行